

20年度事業報告書

特定非営利活動法人 I Loveつづき

私たちは、いままで「身近な地域のまちづくり」「環境」を活動の中心においてきました。その中で個人個人が、地域のさまざまなグループや協議会、検討会、自治会、愛護会などに活動を広げ、ネットワークをつくってきました。それに伴い、活動の幅やテーマも年々広がってきました。

また、「身近な地域のまちづくり」「環境」としての温暖化対策として、3年目となる「緑のカーテン」「打ち水」「キャンドルナイト」という環境啓発イベントの実行委員会事務局を努めました。

今年で4年目となる「サバイバルジュニア」の事業は、東京ガスをメインスポンサーとして、継続していくことが決まり、子どもたちへの防災啓蒙事業の定着化にめどが立ちました。

さらに新しく「地域経済活性」分野での取り組みを計画し、横浜市経済観光局の「経済の新たな担い手創生事業」へ提案した、「ワークライフバランス向上を 目指したテレワークの実施・推進」が、第2段階の審査に通過しました。

これにより2月に「新しい働き方シンポジウム」を開催したところ、集まった44名のうち13名が、「テレワーカー」として登録しました。今後2年間テレワークというツールを使い、地域経済の活性というまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。私たちはこれらの事業を、昨年度も多くの市民グループや企業、行政と協働で取り組んできました。今後も地域の中でよりよいまちづくりを考える人たちと力を合わせて、行動していきます。またそれらの取り組みについて、そこで得たノウハウを多くの方に知ってもらうために、ウェブなどで広く公開していきます。

●横浜サバイバルジュニア隊員養成プロジェクト

今年度で4回目となる、災害時に強い子供たちを育成する「サバイバルジュニア隊員育成プロジェクト」は、今年より東京ガスの全面協力により、「東京ガスサバイバルジュニア事業」と名前を変え、はじめて晩秋の11月終わりに行いました。また今回は初の試みとして親子参加としました。参加者数は子供38名、大人35名でした。実際の申し込みは、子供52名、大人48名でしたが、直前に風邪や怪我などでキャンセルが出ました。参加無料だったことでキャンセルしやすいことも原因と思われる。今回は東京都市大学(旧武蔵工業大学)の学生さんが全面サポートしてくれました。ボランティアを含め総勢100名以上での防災キャンプ、その後のワークショップと子ども防災シンポジウムを着実にやり、成果をあげました。子ども防災シンポジウムでは、インターネット放送もし、ネット上で100名以上の閲覧がありました。またこの取り組みが、神奈川新聞に大きく取り上げられました。

支出 1,987,715円 子供38名、大人35名 (ボランティアを含め総勢100名)

NPOからのこの事業への従事者 11名

●環境にやさしいまちづくりイベント事業

I Loveつづきは「環境にやさしいまちづくりイベント」事業の中で、実行委員会の事務局を3年間努め、イベント等を取りまとめてきました。おおよそ前年度と同様に行なってきましたが、今年度は打ち水に関しては、地域ごとに開催してもらえるように「打ち水ツール」なるものをつくりました。

キャンドルナイトは今年のみなきたウォークをキャンドルの灯った紙バックを持って歩くキャンペーンも行ないました。またエコ講座もあわせて行ないました。今年度も4つの駅前大型商業施設(駅ビル、デパ

ート、ショッピングモールなど)がカウントダウンによるライドダウンイベントを行いました。

支出 1,025,383円

①緑のカーテン

栽培参加者 164組、参加小学校 11校、展示来場者 1,500人

②打ち水イベント 参加箇所 15、参加者 839人

(モザイクモール港北 250人、センター南すきっぷ広場～区役所 250人、区内公共施設289人、ハウスクエア横浜 50人)

③キャンドルナイトイベント 参加店舗・団体 29、参加者 4,850人

(コンサート センター南 300人、コンサート センター北 100人、

エコランド 300人、カウントダウン 500人、キャンドルウォーク 150人

フリマ 3500人)

NPOからのこの事業への従事者 11名

●中川福祉のまちづくり

市営地下鉄中川駅舎上部にケアプラザ、老人介護施設、保育園が建設されるのを期に、中川駅周辺約500メートルの範囲を横浜市が福祉のまちづくり重点推進地区に指定することを受け、区役所各課、福祉施設事業者、町内会、福祉関係者、学校関係者、地域活動団体等の集まる協議会が結成されました。幅広い福祉の概念をもとに、中川地区の「であい・ささえあい・わかちあい」の実現をめざし4つの分科会があり、I Love つづきは「中川のまちのにぎわいづくり分科会」の一員として、行動計画策定に関わっています。今後も、にぎわいづくりのための諸施策の実施主体ともなっていく予定です。20年度は駅舎上部の福祉施設の愛称を決定しました。

NPOからのこの事業への従事者 11名

●経済の新たな担い手創生事業「ワークライフバランス向上を目指したテレワークの実施・推進」

5月にまず第一段階の審査が通り、実現可能性調査を行い、その後、第二段階審査の発表が12月にあったので、事業は年度ぎりぎりにフルスピードで行われました。今年度の事業内容は、拠点の設備の充実とシンポジウム、研修会の開催、ウェブタウン横濱3.0のサイト構築、などにとどまり、来年度にサイト他の充実を託しました。シンポジウムでは44名の方に参加していただきました。終了後も現在15名がI Loveつづきの賛助会員に新規登録しました。

サイトも、コラボレーションしているNPO法人横浜コミュニティデザインラボやNPO法人シニアSOHO横浜などにも助けていただき、3月31日にオープンしました。来年度はさらにこれらの事業を充実させていきます。

支出 1,659,800円

シンポジウムでは44名 15名の賛助会員(テレワーカー)登録。

NPOからのこの事業への従事者 11名